

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

## 江府町を担う人材を育てる教育

日野郡ふるさと教育推進協議会の設立総会が、6月27日(木)、日野町役場で開催されました。この協議会は、日野郡における青少年に郷土の良さを伝え、将来ふるさとに貢献できる人材を育てるために、関係機関等が連携してふるさと教育を推進することを目的としています。平成31年度行財政方針でも述べましたが、私は江府町の抱える課題を解決する糸口は、若年層の人口を増やすことに、町全体が一丸となって取り組むことだと考えています。そのために重要なのは、町外からの移住定住を促進するとともに、現在江府町に住んでいる子どもたちに、将来江府町に帰って来て、江府町を担う人材になってもらうような、郷土愛を持たせる教育をすることだと考えています。では、具体的にどうしたらいいのか。江府町では昨



▲日野郡ふるさと教育推進協議会設立総会の様子

年度から中学生を対象にしたアントレプレナーシップスクールを開催し、地域課題を自分たちで解決する教育を行ってまいります。それが高校生になってもしっかりとサポートします。また、将来のキャリアビジョンを描き、実現するための支援もしていきたいと考えています。江府町だけでは力が足りないところを、日野郡三町で一緒になって、県の協力も得ながら「公設塾」の運営という形で推進していきます。本年度は日本財団の助成も受けられることになりました。地域のみならずのご理解、ご協力をよろしくお願いたします。

# 「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム(※)活動報告

今年度のプロジェクトチーム活動は、職場の環境・働き方の改善に取り組むこととしています。

新庁舎の建築が、いよいよ8月に着工、来年度中の完成、そして移転と進んでいく中、おびただしい量の書類の廃棄や、今後の保管方法などが課題の一つであることは5月号で紹介したところでした。一方で、日々の仕事を見つめ直し、事務や業務のしくみをわかりやすく効率化していくことも必要になってきます。そこで、まず取り組むのが、39歳以下の全職員を対象とした『小さなカイゼン部活動』。い

つもと同じカテゴリで、いつもと同じやり方で業務を繰り返しては「あれ？」と気づくことは難しいものです。所属を超えて編成したチームなら、「何で？」と素朴な疑問を受けたり、自らが「不思議だな」と感じて疑問を深め、そこから「どうしたらいいのか？」と考え始めるような活動ができます。もちろん、この活動の先に目指すのは、業務を改善し、働き方を変えることで、町のみなさんの元気と幸せにつながることに。活発な部活動から、フレッシュなアイデアが浮かぶよう、どうぞご期待ください！

これまでの活動はこちら!



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

## ～若手職員による『小さなカイゼン部活動』～

《活動の柱》  
快適に働ける職場づくり「仕事のやり方改善」に取り組む過程で、住民と職員が共に活躍できる新しい働き方を考える

- 事務や業務の改善 (職員)
- ↓
- 対話の充実 (町民)

- 仕事が楽しくなる職場 (職員)
- ↓
- 行くのがワクワクする役場 (町民)

《めざす姿》  
「職員として、こうありたい！」  
(2017年職員ワークショップから)

- ★住民に寄り添える・頼られる
- ★プロとしての自覚を持つ
- ★積極的で元気

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。